

SV.LEAGUE

2025-26 SmileRally Report

地域とクラブをつなぎ、笑顔を未来へ

2025-26シーズンで2年目を迎えたSVリーグ。

リーグのMISSIONである「強く、広く、社会とつなぐ」をさらにカタチにするため、今シーズンから新たに「SmileRally」がスタートしました。

クラブとホームタウンのつながりを深め、地域に笑顔の輪を広げるため、全国各地でさまざまな活動を展開。

本レポートでは、「SmileRally」が歩んだ1年間の挑戦と、その先に生まれた笑顔を振り返ります。



CONTENTS

P3 大河正明 チェアマンメッセージ

P4 SVリーグのミッション

P5 私たちが描く、新しい価値

P6 大舞台で広がるSmileRally

P7 数字から紐解くSmileRally

P8～34 “つながり”を生み出す各クラブの活動

P35 2026-27 次のシーズンに向けた挑戦

大河正明 チェアマンメッセージ

～SVリーグがつなぐ、笑顔あふれる未来へ～

大同生命SV.LEAGUEは、「世界最高峰のリーグ」を目指し、「強く(Strong)、広く(Spread)、社会とつなぐ(Social)」をMISSIONに掲げ、日々挑戦を続けています。

2025年に発表したSVリーグの成長戦略「REBORNII」では、このMISSIONの一つである「社会とつなぐ」を実現させるための具体的なアクションとして、「ホームタウン活動の活性化」「社会連携へのチャレンジ」「国際競争力の向上」の3本柱を掲げました。

私たちは、このうちの「ホームタウン活動の活性化」および「社会連携へのチャレンジ」を力強く推進していくため、各クラブが従来から地道に行ってきたホームタウン活動や、リーグが行政、各種企業・団体と連携して社会課題の解決に向けて取り組むプロジェクトを統合し、新たに「SmileRally(スマイルラリー)」という名称のもとでスタートさせました。

「SmileRally」は、「つなぐ力で、みんなを笑顔に」を合言葉にしています。バレーボールをきっかけとした地域活性の取り組みから笑顔が生まれ、笑顔の輪を社会全体へと大きく広げる原動

力となること。年齢性別を超えて人々がつながり、誰もが毎日を生き生きと楽しむ社会を目指しています。

この「SmileRally」が本格始動した2025-26シーズンは、各クラブに「ホームタウン活動担当者」が配置されたことで、各クラブの活動がより一層活発化した一年となりました。各クラブが地域の特性や課題に真摯に向き合い、地域社会に笑顔と元気を届けるアクションを全国各地で数多く展開しています。こうした「人と人をつなぐ場」の創出によって生まれる地域との強固な結びつきは、新たなファンやパートナーとの絆を深めてリーグの事業力を押し上げ、ひいては私たちが目指す「世界最高峰のリーグ」を支える強い基盤となることを確信しています。

本レポートを通じて、2025-26シーズンにおける「SmileRally」の全クラブの活動とその成果が可視化され、社会に対して広くお伝えすることに少しでも繋がれば幸いです。今後もクラブ、選手、地域の皆さま、そして多くのステークホルダーをリーグが「つなぐ」ことで、世界最高峰のリーグにふさわしい、さらなる社会的価値の創造に努めてまいります。



SVリーグ チェアマン
大河正明

SVリーグのミッション

MISSION

強く、広く、社会とつなぐ

強く

競技・ビジネス・ガバナンスの「強い」組織となり、グローバルでプレゼンスを高める

広く

競技者・ファンのすそ野を広げ、バレーボールの価値をより「広く」届ける

社会とつなぐ

SV.LEAGUEを通じて人と社会を「つなぎ」、社会課題を解決する

VISION

世界最高峰のリーグ ～GO FOR 2030～

経営力×影響力×競技力で世界のバレーボールをリードする存在になる

経営力

成長の最大のドライバー

ガバナンスを強化し、リーグ運営基盤の整備と新規事業立ち上げ、デジタルマーケティング分野への投資を進めることで、世界一の事業規模・経済圏を実現する。

影響力

社会とつながり巻き込む

リーグの事業活動や社会連携の活動を通して、日本・世界を巻き込み、人々のこころや経済を動かす存在となる。

競技力

才能が集い、夢が育つ舞台に

制度整備、各国リーグ・協会との連携を強化し、国内外の最高峰の人材が集うリーグ、「プロバレーボール選手」を夢見る国内外の人材が成長できるリーグを実現する。

VALUE

「価値あるつながり」の源泉となる
世界で最も「ヒト・モノ・カネ・情報」を集める存在に

サッカーのプレミア、バスケットボールのNBA、野球のMLBのような、バレーボール界における「世界の中心」を日本に作る



つなぐ力で、みんなを笑顔に。

バレーボールをきっかけにした
地域活性の取り組みから笑顔が生まれ、
その笑顔がまた次の支援へとつながっていく。
世界中で親しまれるバレーボールだからこそ、
笑顔の輪を社会全体へと大きく広げる原動力になれる。
年齢性別を超えて人々が絆を取り戻し、
誰もが毎日を生き生きと楽しむ社会をめざして
SVリーグは様々な活動に取り組みます。
“つなぐ”スポーツ、バレーボールの力を信じて。



主に以下の3つのテーマを対象に
活動を展開していきます

◎人をつなぐ

性別・年齢・障がい・地域の違いを越えて、すべての人が尊重
され、誰かとつながっていると実感できる社会をめざします。



◎世界とつなぐ

スポーツの力で、国を超えて人と人がつながり、
ウェルビーイングの輪を世界へ広げていきます。



◎未来につなぐ

未来の子どもたちが、希望あふれる未来へつながるように。心が
育ち、暮らしが守られる豊かな社会の実現に貢献していきます。



大舞台で広がるSmileRally



ALL STAR GAMES

ふうせんバレーボール体験会

1月31日・2月1日に兵庫県神戸市で開催された「エムット presents SV.LEAGUE ALL STAR GAMES 2025-26 KOBE」の会場で、「SmileRally」の活動第一弾となる「ふうせんバレーボール体験会」を実施しました。

本イベントは、三菱UFJフィナンシャル・グループとの共催のもと、日本ふうせんバレーボール協会、神戸市、障害者スポーツ協会の協力を得て開催。障害の有無に関わらず2日間で約60人の子どもたちが参加し、オールスターゲーム出場選手との交流を楽しみながら、ふうせんバレーボールを体験しました。

また、ふうせんバレーボールの日本王者チームも参加し、イベント終盤にはSVリーグ選抜チームとのエキシビジョンマッチを開催。SVリーグ選抜チームが完敗するほどの白熱した展開となり、会場は大きな盛り上がりを見せました。年齢や性別、障害の有無を問わず、多くの人が笑顔でつながり、共に楽しむことができるイベントとして、大盛況のうちに幕を閉じました。

ふうせんバレーボールとは？
直径40cmのふうせんを使用し、障がいのある関係なく楽しめるバラスポーツ。メンバー全員が必ず1回はふうせんに触れ、10回以内に相手コートに返すという全員参加型のルールが特徴です。



大同生命SV.LEAGUE CHAMPIONSHIP Finals SmileRally × YOKOHAMA GO GREEN

SV.LEAGUE CHAMPIONSHIP Finalsの神奈川県横浜市開催を機に、「SmileRally」と横浜市の脱炭素施策「YOKOHAMA GO GREEN」が連携。SmileRallyの3つのテーマの一つである「未来につなぐ」の活動として実施しました。

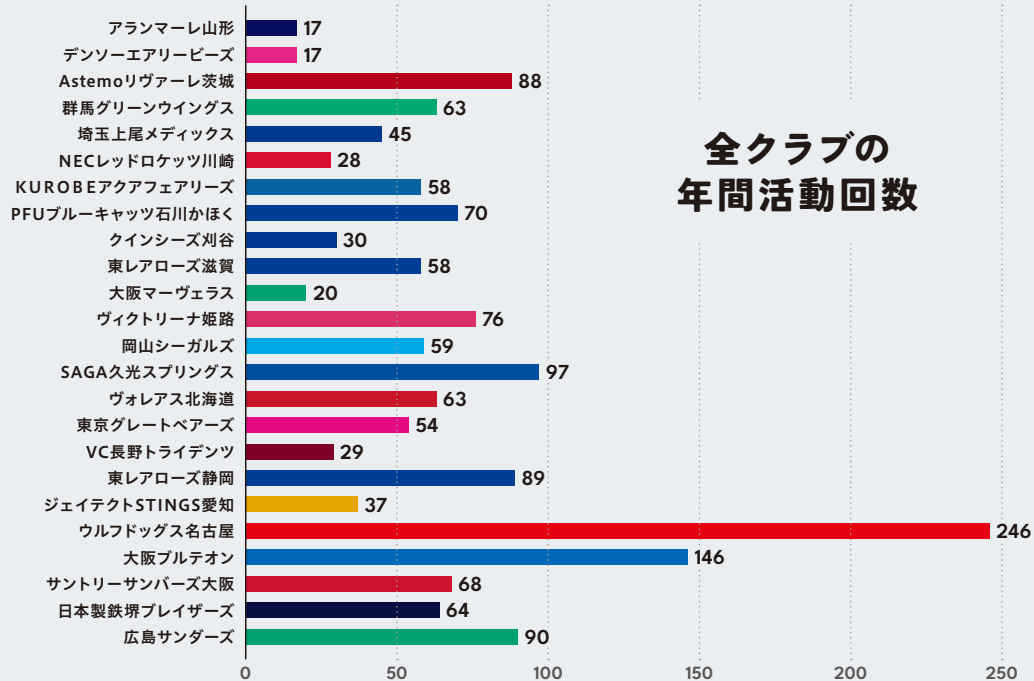
大会に先立つ4月14日には、横浜市立本町小学校の6年生約100人を対象に、「バレーボール教室×GO GREENクイズ」を開催。環境〇×クイズで地球温暖化や脱炭素について学んだ後、SVリーグOGの櫻井由香によるバレーボール教室や給食交流を行いました。また、参加児童には節電ステッカーやミニノートを配布しました。大会当日は、試合会場で「ゴミ分別アクション」と「SNS連動企画」を実施。エコステーションに分別方法を示したボードやパネルを設置し、多くのお客様が確認しながらゴミを捨てる様子が見られました。また、「SNS連動企画」では、YOKOHAMA GO GREEN公式Xの投稿をリポストした方に、100%リサイクル紙を使用したオリジナルステッカーをプレゼントしました。これらの取り組みを通じて、多くの方にYOKOHAMA GO GREENの活動や脱炭素への理解を深めていただく機会となりました。

SmileRally×YOKOHAMA
GO GREENステッカー



数字から紐解くSmileRally

全クラブの 年間活動回数

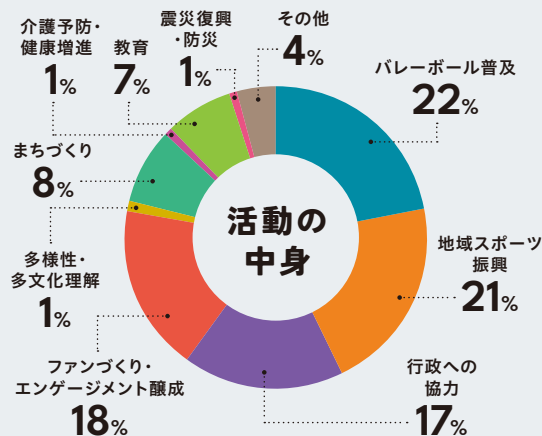


全クラブ合計 活動合計回数

1,612回

活動でふれあった人数

539,241人



最優秀社会連携クラブ賞紹介

地域と未来をつないだ4クラブを表彰

「リクルートスタッフィングpresents 大同生命SV.LEAGUE AWARDS 2025-26」において、地域や社会に貢献する優れた取り組みを実践した4クラブが、「最優秀社会連携クラブ賞」に輝きました。

Smile部門

PFUブルーキャッツ石川かほく



「石川県内灘町宮坂地区」復興米生産を通じた令和6年能登半島地震復興支援活動

ジェイテクトSTINGS愛知



岡崎市×ジェイテクトSTINGS愛知 地域共創の取り組み

Rally部門

東レアローズ滋賀



スポーツで繋ぐ共生の輪～バレーボール交流プロジェクト～

大阪ブルテオン



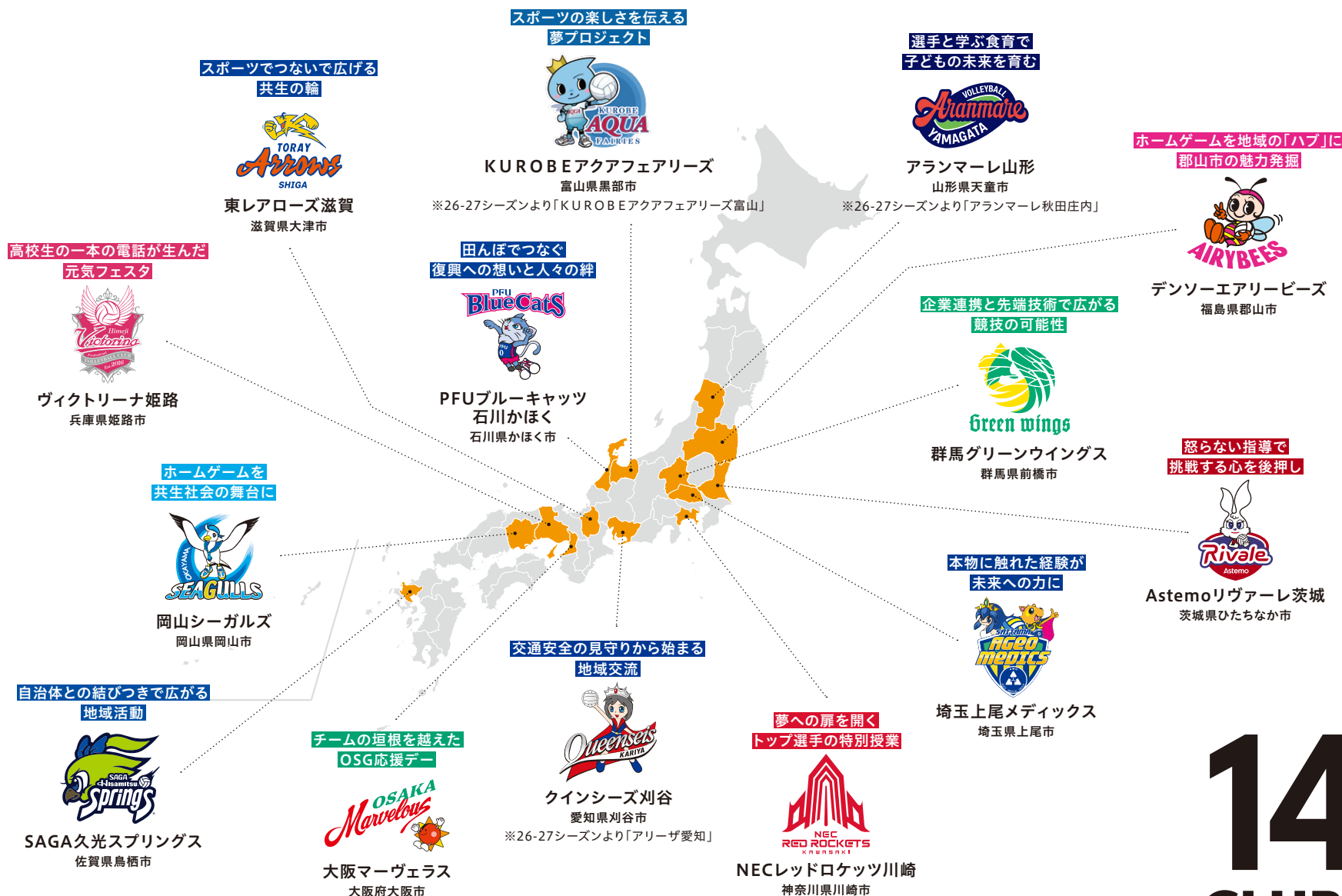
手話応援をバレーボール観戦の文化に～共創で誰もが楽しめる観戦環境を目指して～



“つながり”を生み出す 各クラブの活動



コートの外でも、地域とともに全国へ広がる



14 CLUBS

やまがた

アランマーレ山形

※26-27シーズンより
「アランマーレ秋田庄内」

山形県天童市・酒田市 ※26-27シーズンより秋田県秋田市・湯上市

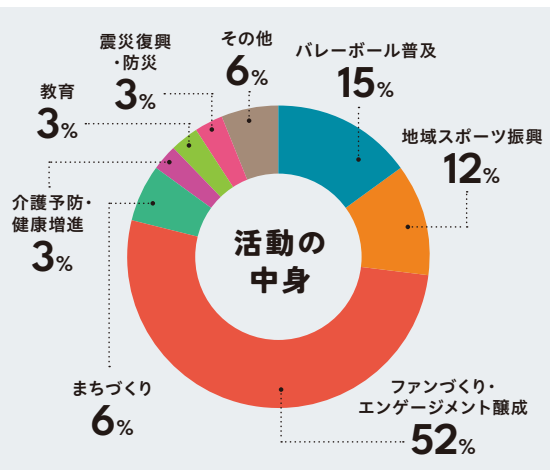


※26-27シーズンよりロゴ変更

2025年で10年目を迎えた食育活動。選手が小学校を訪問し、前日の夕食を振り返りながら栄養バランスを考えるワークや、食育クイズ、バレーボールでの交流を通じて、楽しみながら食事の大切さを学べる機会を創出しています。食育授業後は選手が児童と一緒に給食を囲み、学びを深める時間も用意。2025年度は県内5校・約230人の児童が参加しました。各校からは多くの感謝の声や手紙が寄せられ、選手にとっても活動の励みとなっています。

ふれあった人数
1,255人

活動回数
17回



2025-26主な活動

県内5校で食育と交流活動

酒田市内の広野小学校・松陵小学校・新堀小学校・平田小学校と、真室川町の真室川小学校を選手が訪問。成長期に必要な栄養素やバランスの良い食事について伝えました。真室川小学校ではバレーボール交流会も実施。レシーブ体験や質問コーナーを通じて交流を深め、笑顔あふれる1日となりました。



地域と連携した独自教材づくり

食育活動で使用するパンフレットやクリアファイルはクラブオリジナルで制作。内容は山形県学校給食会と連携して作成し、選手の写真を豊富に掲載。食育クイズや山形県の特産品などを分かりやすく紹介しています。子どもたちが楽しみながら食事の大切さを学べる教材として活用しています。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

選手たちがアイデアを出し合いながら全力で取り組むホームタウン活動は、アランマーレの大きな強みになっています！これからも地域の皆さまに笑顔届けられるよう、一つひとつの活動を大切に続けていきます。

安永 享祐さん



デンソーエアリービーズ

福島県郡山市



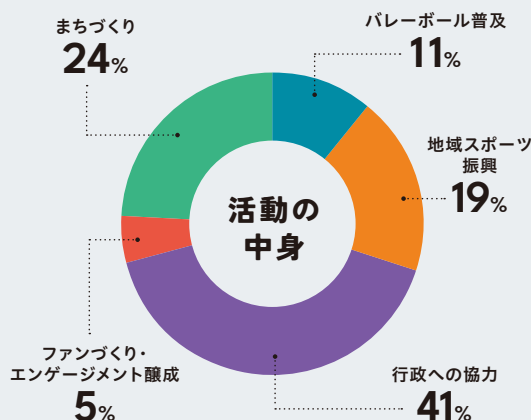
ホームゲームを地域の人や団体がつながる「ハブ」と位置づけた取り組みを推進。郡山市の魅力発掘プロジェクトでは、市とともに各学校・団体を訪問し、活動の趣旨や思いを直接伝えながら協力を呼びかけました。また、「ぶんぶんカップ」や福島ファイヤーボンズとの健康づくり企画も展開。多くの関係者との共感の輪を広げながら地域と一体となった活動を進め、平均来場者数は前年の約900人から1,700人超へと大きく伸長しました。

ふれあった人数

5,363人

活動回数

17回



2025-26主な活動

ホームゲームで郡山の魅力を発信

ホームゲームを地域交流の場と位置づけ、郡山市と連携して魅力発掘プロジェクトを展開。高校生の文化・体育活動の紹介や、華道・茶道・琴、ひょっとこ踊りなど地域団体によるお出迎えを実施し、郡山の魅力を届けました。



選手と子どもたちが共に挑戦

福島県や田村市と連携し、小学生向けバレーボール大会「ぶんぶんカップ」を開催。エアリービーズの選手1～2人が各チームに加わってプレーやアドバイスを実施。競技の楽しさや成長する喜びを共有しました。

スポーツで広げる地域連携の輪

B2リーグ所属の「福島ファイヤーボンズ」や郡山市の健康サポート事業と連携し、ウォーキングイベントや宇宙科学施設とのコラボ企画を実施。スポーツに健康づくりや科学の要素を掛け合わせ、新たな地域交流の機会を創出しました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

ホームタウン移転2年目となった2025年度は、地域課題の解決や魅力発信につながる場としてホームゲームを活用し、多くの団体と連携して活動を展開しました。今後も地域に根差し、必要とされるクラブをめざしていきます。

福田 実さん



アステモ

いばらき

Astemoリヴァーレ茨城

茨城県ひたちなか市



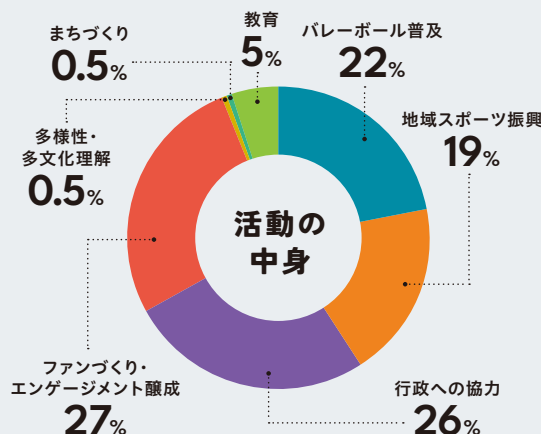
子どもたちがスポーツに親しみ、将来の可能性を広げられる環境づくりに向けて、ホームタウン・ひたちなか市をはじめ、全国の自治体と連携して選手による体操教室やバレーボール教室を開催しています。2025年度は「監督が怒ってはいけない大会 in 茨城」の共催のほか、全国30会場で1,300人を超える子どもたちにスポーツの楽しさを届けました。これからも、バレーボールを通じて地域課題の解決に貢献していきます。

ふれあった人数

8,995人

活動回数

88回



2025-26主な活動

「監督が怒ってはいけない大会」の共催

昨年に続き、元バレーボール日本代表の益子直美さんが主催する「監督が怒ってはいけない大会」の茨城大会を開催しました。県内8つの小学生チームが参加し、選手15名によるバレーボール教室や交流戦を実施。また、ひたちなか市と連携して指導者や保護者向けアンガーマネジメント講座を実施し、怒る指導や大声に頼らないスポーツ環境づくりを推進しました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

リヴァーレの地域活動は選手一人ひとりが考え、子どもたちや地域の皆さまと触れ合いながら取り組んでいます。これからも、この取り組みを少しずつ広げ、子どもたちにスポーツをする楽しさを伝えていきます。

熊澤 良さん



ぐんま

群馬グリーンウイングス

群馬県前橋市



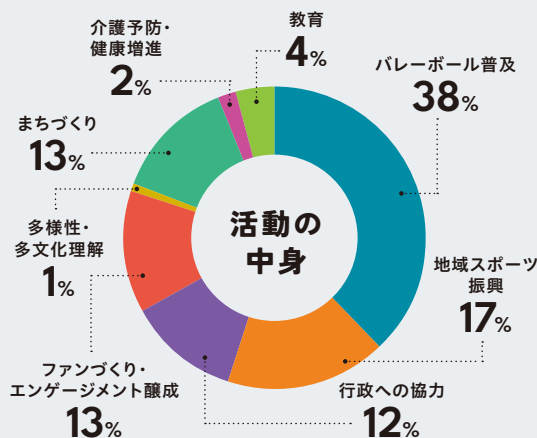
群馬県のデジタル産業企業育成政策「ぐんま未来創生トライアル支援」の一環として、サンバード株式会社と連携し、VRシステムの実証に協力しました。プロ選手とプレーを比較できるアプリや、よりリアルなゲーム開発に向けて選手が撮影に参加。完成したVRシステムはバレーボール教室やU15選手が体験し、技術向上につながりました。今後も先端技術を活用しながら地域や企業との連携を深め、新たな価値創出と地域活性化をめざしていきます。

ふれあった人数

6,241人

活動回数

63回



2025-26主な活動

VR技術開発をスポーツで支援

サンバード株式会社による、撮影映像を活用した3Dモデルの構築や、プロ選手と自身のプレーを比較できるアプリ、よりリアルなゲームソフトの開発に協力。スポーツ分野での実証を通じて地域企業の技術開発を支援し、スポーツ振興にとどまらない産業支援と新たな関係構築につながりました。



プロの動きを見て学ぶVR教室



VRシステムを活用したバレーボール教室を実施。子どもたちはプロ選手と自身の動きを比較しながら学び、スパイクレシーブの練習にも挑戦。「プロ選手の動きをまねできて勉強になった」と好評で、15人中14人が「面白かった」と回答。バレーボールへの興味や関心を高める機会となりました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

デジタル技術の活用を推進する群馬県、VRや3D技術を保有する企業、群馬グリーンウイングスの3者連携事業です。単なるバレーボール教室としてではなく、いろいろな要素を取り入れて地域をつなげ、発展させていきたいです。



佐藤 公彦さん

さいたまあげお

埼玉上尾メディックス

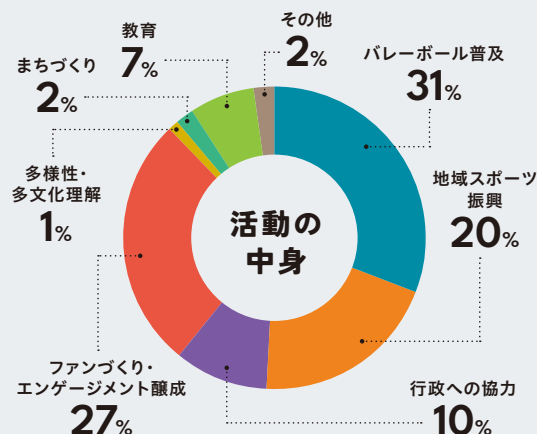
埼玉県上尾市



埼玉りそな銀行の寄贈型CSR私募債を活用し、株式会社直徳が鴻巣中央小学校へソフトバレーボールやノート、クリアファイルを寄贈。選手も小学校を訪問し、バレーボール体験や給食の時間を通じて子どもたちと触れ合いました。スポンサーの「本物に触れる機会を提供したい」という思いを形にするとともに、競技への関心やクラブの認知向上にも貢献。この活動をきっかけに鴻巣市との連携が深まり、継続的な地域交流へと発展しています。

ふれあった人数
18,507人

活動回数
45回



2025-26主な活動

“本物”に触れる、バレーボール体験会

選手によるレシーブ・トス・アタックのデモンストレーションでは、高さや迫力あるプレーに子どもたちから大きな歓声が上がりました。体験会では実際にボールに触れ、「アタックが打てた!」と喜ぶ声も。子どもたちの笑顔に触れ、選手たちも自然と笑顔に。シーズンの中でも印象に残るひとときとなりました。



給食を囲んだ和やかな交流

バレーボール体験会の後は質問タイムを実施。その後は一緒に給食をいただき、地元名物の鴻巣コロッケを味わいながら会話を楽しみました。選手からの希望でもあった給食交流が実現し、「懐かしい」と笑顔を見せる場面も。バレーボールを超えた温かなふれあいの機会となりました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

「子どもたちに本物に触れる機会を」というクライアント様の思いと、「子どもたちと給食を食べたい」という選手の思いが重なり実現した活動です。元気いっぱいの小学生から、たくさんのパワーをもらいました。



岩下 忠正さん

エヌイーシー

かわさき

NECレッドロケッツ川崎

神奈川県川崎市



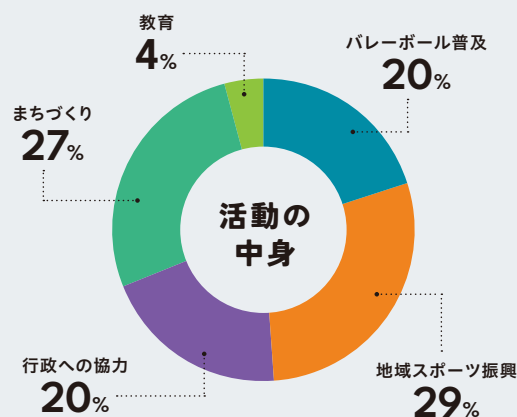
川崎市内の小学校で、体育授業の1コマを活用して選手による特別授業を実施しました。バレーボールのミニゲームやデモンストレーションを通じて、体を動かす楽しさや仲間と協力する喜びを体感。さらに、選手が乗り越えてきた困難や努力の積み重ねを伝えることで、夢や目標に向かって挑戦することの大切さを学ぶ機会に。トップアスリートを身近に感じながら、子どもたちが自身の将来や可能性について考えるきっかけにもなっています。

ふれあった人数

7,147人

活動回数

28回



2025-26主な活動

夢につながる特別授業

西有馬小学校、向小学校、南加瀬小学校、大島小学校で開催。パスやレシーブなどの基礎練習を選手と一緒にやり、アドバイスを受けながら技術を学びました。質問コーナーでは「なぜうまくなったのですか」「普段はどんな生活をしていますか」などの質問が寄せられ、子どもたちからは「バレーボールをやりたい」「試合を観戦したい」といった声も聞かれました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

楽しみながら基礎技術を学べる教室です。本気のスパイク体験や三段攻撃の特別ルールゲームにより、子どもたちは達成感を味わい、仲間と協力する大切さも実感。心と技術の両面で成長できる教室となりました。

塚田 しおりさん



KUROBEアクアフェアリーズ

富山県黒部市

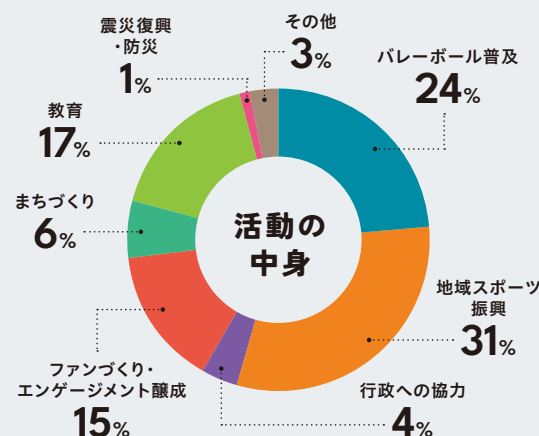


※26-27シーズンよりロゴ変更

「富山県民の笑顔」「子どもたちの笑顔」「企業の笑顔」を生み出す「スリスマイルミッション」のもと、「夢プロジェクト」を展開しています。選手やスタッフが保育園、幼稚園、小学校を訪問し、「夢バレー」「夢体育」「夢講話」を実施。バレーボール体験や講話を通じて、スポーツの楽しさや夢を持つことの大切さを伝えています。子どもたちと選手が直接ふれあうことで競技への興味や応援する気持ちを育み、地域活性化や競技人口拡大につなげています。

ふれあった人数
23,526人

活動回数
58回



2025-26主な活動

園児とつながる夢バレー

選手が幼稚園や保育園を訪問し、ボールを使ってたくさん体を動かしながら、バレーボールの楽しさを体験してもらいました。笑顔いっぱい遊ぶ子どもたちの姿に、選手たちも元気をもらう時間に。「夢バレー」をきっかけに、バレーボールを好きになってもらいたいという思いで活動を行っています。



夢を持つ力を子どもたちへ

選手が小学校で「夢体育」「夢講話」を実施。初めてバレーボールに触れる子どもたちも多い中、パス練習や円陣パスに挑戦し、短時間で大きな成長を見せました。講話では選手が中学時代の夢や努力してきた経路を紹介。スポーツの楽しさとともに、夢に向かって挑戦することの大切さを伝えました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

創部当時から、スポーツの枠を超えた社会貢献活動を継続。選手自ら地域へ足を運び、子どもたちの夢づくりや地域活性化に取り組み、「ホームタウンの未来を、スポーツの力で支える」という思いで活動しています。



橋本 佳織さん

ビーエフユー

いしかわ

PFUブルーキャッツ石川かほく

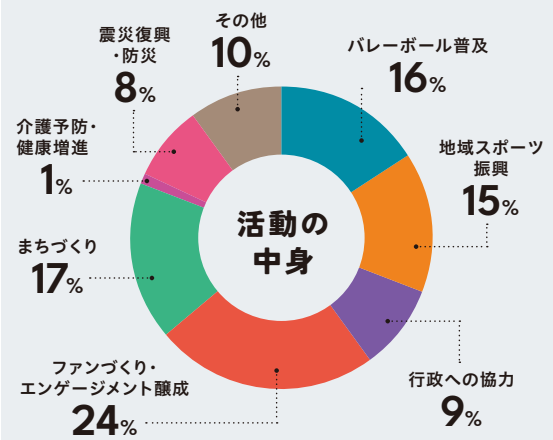
石川県かほく市



令和6年能登半島地震で大きな被害を受けた石川県内灘町宮坂地区の復興米生産を支援するため、石川かほく農業協同組合、内灘町、地元農家と連携し、田植えや稲刈りに参加。クラブの発信力を生かして被災地の現状や復興への歩みを広く発信しました。活動を通じて内灘町との関係も深まり、フレンドリータウン協定締結へと発展。今後も私たちにできることを考えながら、少しでも復興へ向けた力になれるよう継続して取り組んでいきます。

ふれあった人数
34,014人

活動回数
70回



2025-26主な活動

復興の歩みを支える田植えと稲刈り

約1年にわたる復旧工事を経て迎えた2025年5月の田植え再開初日の「復興田植え」に選手・スタッフ全員が参加。8月の「復興稲刈り」にも参加し、復興への願いを込めて活動しました。今後は内灘町民のホームゲーム来場促進や地域イベントなどの地域活性化にも取り組んでいきます。



おむすびで届ける復興への思い



食品加工企業・株式会社米心石川に本取り組みの思いに共感いただき、収穫されたお米を無償で「塩むすび」に加工。11月と2月に開催された4日間のホームゲームで、計約4,500個を無料配布しました。約4,000名の方に来場いただき、復興への思いや被災地の現状を伝える機会となりました。

MESSAGE ホームタウン担当から一言

能登地方に比べて被災状況が伝わりにくい内灘町の復興への思いを、多くの方へ届けることができました。事前に関係者でミーティングを行い、その思いを選手へ直接伝えることで、当事者意識を持って活動できました。

森 祥平さん



かりや

クインシーズ刈谷

※26-27シーズンより
「アリーザ愛知」

愛知県刈谷市



※26-27シーズンよりロゴ変更

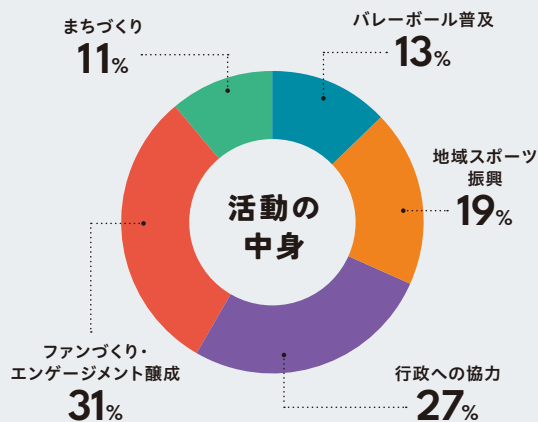
自動車を製造する企業として交通安全への責任と使命を持ち、毎年6月に近隣小学校3校で交通安全立哨活動を実施しています。登校時間帯に校門付近で児童の見守りやあいさつ、通行車両への注意喚起を行いました。子どもたちからは元気なあいさつや「試合がんばってね!」といった応援の声が寄せられ、選手たちも大きな励みに。活動をきっかけに試合会場へ足を運んでくださる方も多く、地域とのつながりを実感できる機会となっています。

ふれあった人数

4,518人

活動回数

30回



2025-26主な活動

選手と広げる交通安全の輪

学校からは「毎年クインシーズ刈谷の選手が来てくれることで、児童たちの交通安全に対する意識が自然と高まり、選手たちをより身近に感じることができています」「選手が来てくれる日は、子どもたちがいつもより大きな声であいさつをしてくれます」との声をいただいています。今後も交通安全活動の輪を広げ、安全で安心な社会づくりに貢献していきます。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

新学期に慣れて油断しがちな時期を狙って実施しています。子どもたちの元気な笑顔に、選手も笑顔になりました。試合の応援に来てくれた子もいて感激。こうした地域との触れ合いが、選手やスタッフのやりがいになっています。

竹内 奈緒美さん



とう しが

東レアローズ滋賀

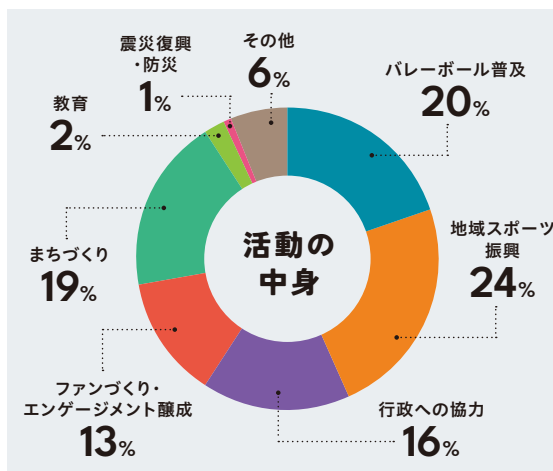
滋賀県大津市、草津市



滋賀県の共生社会の実現をめざす「スポーツで繋ぐ共生の輪～バレーボール交流プロジェクト～」。身体（聴覚）・知的・精神障がいのあるバレーボールチームを対象に、選手による教室や交流会を開催しました。手話通訳士を配置するなど、誰もが安心して参加できる環境を整え、相互理解と共感を育んでいます。また、ICTを活用した観戦支援事業と連動し、「する」と「みる」の両面から、誰もがスポーツを楽しめる地域づくりを進めています。

ふれあった人数
37,941人

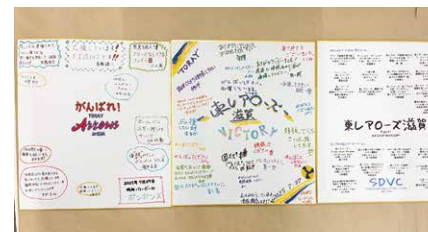
活動回数
58回



2025-26主な活動

交流型バレーボール教室

選手からアドバイスを受けたデフバレーの選手は、大会に向けて努力を重ね、その姿はNHKでも紹介されました。また、不登校生徒が通学できるようになったとの報告も。自信や挑戦を後押しする機会となっています。



誰もが楽しめる観戦環境づくり

ICTを使った観戦支援事業「VOLLEYBALL BROADCAST」では、多様な方が臨場感をもって試合観戦を楽しめる環境づくりを推進しています。音声解説やバックヤード見学など、試合の魅力や選手たちの思いに触れる機会を創出。誰もがバレーボールを身近に感じ、楽しめる地域づくりにつなげています。



次世代と共にスポーツの未来を育む

バレーボール教室では、滋賀大学バレーボール部の学生にスタッフとして参加していただきました。これは、次世代指導者の育成につながる取り組み。年代や障がいの有無を超えて支え合う循環型地域スポーツモデルの構築をめざします。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

地域や関係団体と連携し、障がいの有無を超えて誰もが参加し、楽しめる場づくりに取り組んできました。スポーツをきっかけに生まれる出会いや交流が、人と人とのつながりを広げる大きな力になると信じています。



芝田 安希さん

おおさか

大阪マーヴェラス

大阪府大阪市



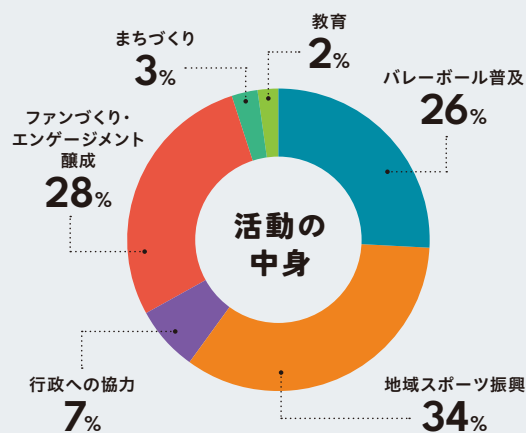
大阪市をホームタウンとする8つのスポーツチーム連携組織「OSAKA SPORTS GROOVE (OSG)」の一員として、ホームゲームで「OSG応援デー」を開催しました。市民を試合へ招待し、キッズエスコートや抽選会、POM(プレーヤー・オブ・ザ・マッチ)贈呈者の事前公募など多彩な企画を実施。OSGファンアンバサダー19名がSNSで情報発信を行い、チームの垣根を越えたファンの拡大と、大阪市のスポーツ振興・都市魅力向上につなげました。

ふれあった人数

6,200人

活動回数

20回



2025-26主な活動

未来につながる現場体験の場

特設ブースにはスポーツ業界を志す学生が運営スタッフとして参加し、2日間で2校7人が活動しました。キッズエスコート受付や抽選会運営など現場を体験し、将来のキャリアを具体的に描く機会に。市民がスポーツに触れる機会の創出に加え、スポーツを支える人材育成にも貢献できました。



大盛況のキッズエスコート

キッズエスコートの公募を抽選制で実施し、多くのお客様よりお申込みいただきました。当日のキャンセル枠をOSGブースで募集したところ希望者が集まり、参加者数は両チームのベンチ入り選手31人を上回りました。終了後には親子でハイタッチする姿も見られ、スポーツ観戦の思い出づくりに繋がったと実感しました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

OSGの皆さまと連携することで、学生向けの職場体験を提供することができました。参加者からは前向きな感想を多くいただいているので、今後、より実践的な現場体験を通じてキャリア形成を支援していきたいです。



池上 遼さん

ひめじ

ヴィクトリーナ姫路

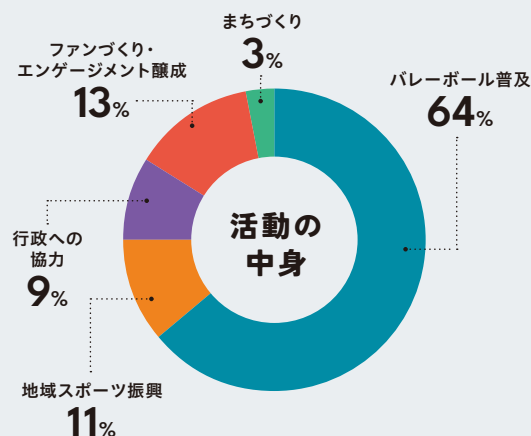
兵庫県姫路市、加古川市



地元高校生から「児童養護施設の子どもたちにバレーボール教室を開いてほしい」と一本の電話を受けたことをきっかけに、子どもたちのスポーツ体験格差という地域課題を知りました。その高校生の想いに感銘を受け、バレーボールを取り入れたスポーツ教室「元気フェスタ2025」を企画。思いを実現するには、行動力と意志の強さが必要という気づきを得るとともに、多くの人に元気や勇氣、生きる希望を届ける存在でありたいという想いを新たにしました。

ふれあった人数
8,148人

活動回数
76回



2025-26主な活動

子どもたちに夢と希望を届ける「元気フェスタ」

少子高齢化や共働き世帯の増加などを背景とした、子どもたちのスポーツ体験格差。この課題解決に向け、姫路市の児童養護施設の子どもたちを対象にスポーツ教室を開催しました。テーマは「誰とでも仲良く、スポーツやバレーボールを楽しむ」。大同生命姫路支社をはじめ多くの関係者の協力のもと実現し、人と人とのつながりの大切さを改めて感じる機会となりました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

一人の女子高校生が抱いた「恵まれた環境への感謝」と「施設の子どもたちにバレーボールを届けたい」という純粋な思いが結実しました。彼女の熱意がクラブを動かし、大同生命様の支援へとつながって開催が実現しました。

屋宜 純一さん



おかやま

岡山シーガルズ

岡山県岡山市、赤磐市

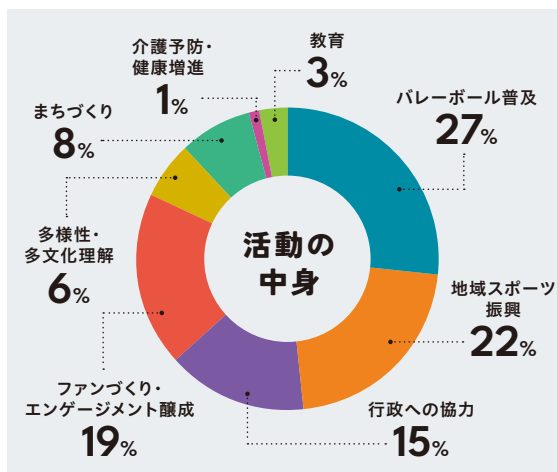


全ての人がお互いを尊重し、支え合いながら共に暮らしていくことができる共生社会の実現は重要なテーマです。チームスポーツであるバレーボールには助け合いの心が不可欠であることを知っているからこそ、チーム創立以来さまざまな人権啓発活動を行ってきました。今季は福祉団体や教育機関と連携し、障がいのある方によるパフォーマンスや多様なルーツを持つ子どもたちのエスコートキッズを実施。誰もが輝けるまちづくりへの一歩となりました。

ふれあった人数
10,548人

活動回数

59回



2025-26主な活動

誰もが輝けるホームゲームづくり

障がいのある方によるチアダンスや手話ダンスの披露のほか、ブラインドスポーツ体験やバレーボール教室を実施。ハーフタイムには、普段は席を立つ観客が多い時間にもかかわらず、多くの方が席に残り、温かな雰囲気の中で見守ってくださいました。また、参加者から「外出やイベント参加のきっかけになった」との声が寄せられました。



ホームゲーム来場者への人権啓発活動



選手メッセージ入りの人権啓発パンフレットやコラボグッズの配布、選手の等身大パネル展示を、ホームゲーム特設ブースで行いました。さらに、福祉施設関係によるキッチンカーの出店も。来場者が楽しみながら障がいや人権への理解を深め、共生社会について考えるきっかけとなりました。

MESSAGE ホームタウン担当から一言

ロビーでの人権啓発活動と、コート上でのパフォーマンスにこだわりました。子どもたちが民族衣装で参加するなど、多様な文化に触れられる機会となり、誰もが輝き、多様性を体感できる場づくりにつながりました。

神田 千絵さん



SAGA久光スプリングス

佐賀県鳥栖市、佐賀市



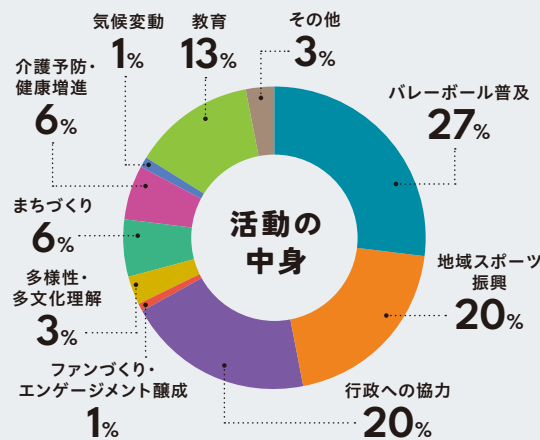
2023年の佐賀県移転後、地域に根差したクラブづくりをめざし、県内自治体との関係構築を推進。その結果、佐賀県および県内10市8町と連携協定を締結し、県内の9割をカバーする体制を実現しました。協定を通じて、バレーボール教室や学校訪問、地域イベントへの参加など活動の幅が拡大。今後はあいさつ運動や健康づくり活動など、未就学児から高齢者まで幅広い世代を対象とした取り組みも展開し、連携をより発展させていきたいと考えています。

ふれあった人数

78,196人

活動回数

97回



2025-26主な活動

バレーボールで地域交流を拡大

今シーズンは、選手やチームOGが参加するバレーボール教室を12回、学校訪問を7回、イベント出演を4回実施。地域におけるスポーツ文化の裾野拡大と、地域住民とのつながりを深め、地元への愛着醸成につなげました。



試合会場から社会へ発信

自治体からの要請を受け、交通安全や環境問題に関する啓発活動を行いました。チームが持つ発信力を活かし、ホームゲーム来場者や地域の方へ、親しみやすくメッセージを届けることができました。



チーム×自治体の応援ポロシャツ

チームのエンブレムと各自治体の市章・町章をあしらった応援ポロシャツを制作し、自治体職員向けに販売。600枚以上を購入いただきました。ポロシャツを着用し、さまざまな活動を共にを行っています。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

多くの自治体と連携し、地域の皆様とともに活動できることを誇らしく感じています。今後も地域住民との接点を増やし、スポーツの力を生かしながら、より地域に根差した幅広い活動を展開していきたいと思っています。

吉村 実さん



コートの外でも、地域とともに全国へ広がる



10 CLUBS

ヴォレアス北海道

北海道旭川市、鷹栖町、比布町、東川町、函館市



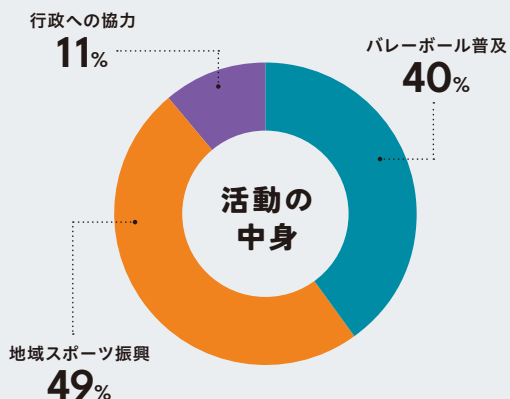
VOREAS HOKKAIDO

※26-27シーズンよりロゴ変更

東川町との連携協定のもと、ふるさと納税を活用し、世界で戦えるバレーボール人材の発掘・育成を目的とした「ヴォレアスサマーリーグ合宿」を開催。東川町の豊かな水や食などの地域資源と、プロクラブの専門性を掛け合わせ、トップレベルの指導環境の実現をめざしました。スポーツ振興と地域活性化を両立する持続可能なモデルとして展開し、参加した子どもたちが将来SVリーグで活躍できるよう、来年度も同規模以上で継続開催を予定しています。

ふれあった人数
17,310人

活動回数
63回



2025-26主な活動

次世代育成×地域活性化の成功モデル

3泊4日の合宿には、全国の強豪校・大学や北海道国体チームなど約80人が参加。プロとの実戦のほか、哲学・理論・栄養・メンタルプログラムを提供しました。返礼品でもある「大雪旭岳源水」や温浴施設など地域資源もフル活用。歓迎BBQでの地域交流や経済効果、町の魅力発信にもつながりました。



最高の環境でトップレベルを体感



プロの技術や思考に触れた学生からは「SVリーグのレベルを肌で感じ、課題が明確になった」「歓迎BBQで選手に直接多くの質問ができた」との声が寄せられました。指導者からも、「水や食など東川町環境はリカバリーに最適」と評価され、参加者・指導者双方から満足度の高い取り組みとなりました。

MESSAGE ホームタウン担当から一言

東川町のふるさと納税を活用した次世代育成プロジェクト。プロの技術やスポーツ哲学を伝え、町全体で世界基準の人材育成をめざします。バレーボールの未来と地域を共に創る、私たちの熱意が詰まった挑戦です！



八幡 至恩さん

とうきょう

東京グレートベアーズ

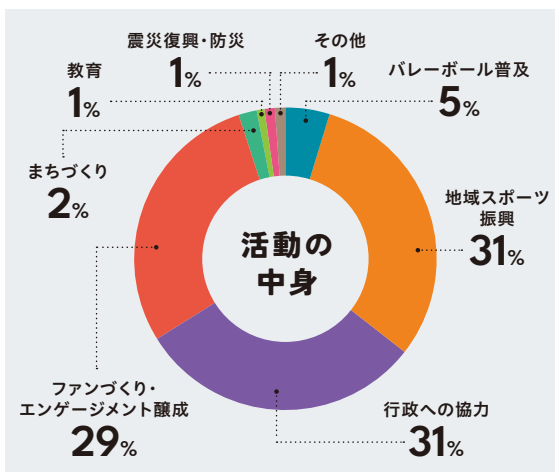
東京都渋谷区



大竹壱青選手によるチャリティープロジェクトを渋谷区と連携して実施。昨シーズンのSVリーグで記録したサービスエース1本につきバレーボール1個、計55個を渋谷区立の小中学校全26校へ寄贈しました。さらに、大竹選手が中学校2校を訪問し、生徒と交流。「コートで積み重ねた得点を、子どもたちの未来へつなげたい」という思いを届けました。渋谷区も本取り組みに手応えを感じており、次年度以降も形を変えながら継続・発展させていく予定です。

ふれあった人数
30,370人

活動回数
54回



2025-26主な活動

学校訪問で夢と活力を届ける

大竹選手が中学校を訪れ、バレーボール部員に技術指導を行いました。生徒たちは2メートルを超える大竹選手のプレーを間近で体感し、忘れられない経験となりました。大竹選手自身も子どもたちとの触れ合いを通じて、プロスポーツ選手としての意義や役割を改めて実感。人間的な成長につながりました。



地域や企業を巻き込む連携

単なる寄付にとどまらず、スポンサーや自治体を巻き込んだプロジェクトとして実施。グレベアのオリジナルソフトバレーボールは株式会社ミカサの協力を得て製作し、記者会見では長谷部健渋谷区長とともに地域連携の意義を発信。生徒たちの観戦招待も継続的にを行い、新規ファンの獲得にもつなげています。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

「する・みる・ささえる」の3つの体験を地域の皆さんへ届けることができました。子どもたちが大竹選手のサーブミュージックに合わせて「イッセイ!」とコールしてくれる声援が、選手の支えとなっています。



原口 攻太さん

ブイシー ながの

※26-27シーズンより「信州松本トライデント」

VC長野トライデント

長野県松本市、南箕輪村、高森町、安曇野市



※26-27シーズンよりロゴ変更

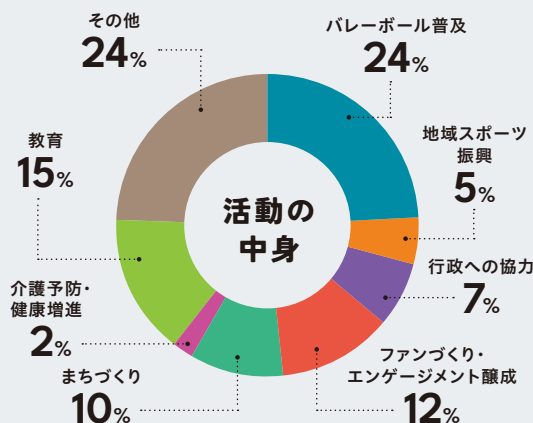
2025年12月27・28日のホームゲームで、スポンサー企業とともにフードドライブに取り組みました。年末年始は支援を必要とする家庭が増える時期であることから、地域の力になりたいとの思いで企画。寄せられた食品は子ども食堂などを通じて配布され、多くの方に喜ばれました。今後も少なくとも年1回の継続開催をめざすとともに、食品ロス削減を通じたSDGsへの貢献や、ホームゲームを活用した社会貢献活動を積極的に展開していきます。

ふれあった人数

9,751人

活動回数

29回



2025-26主な活動

企業連携でフードドライブが実現

企画段階から協賛企業のKOA株式会社とともに準備を進めました。お互いにとって初めての取り組みで不安もありましたが、KOAの皆さんが楽しみながら積極的に参加されている姿が印象的でした。2日間で予想を上回る1,139点(約310kg)の食品が集まり、KOAからも高い評価をいただきました。今後の継続開催につながる大きな手応えを得ています。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

ファンの皆様の温かい「地域を想う力」に深く感動しました。KOA株式会社様や中島選手、酒井選手とともに、長野の子どもたちの未来を支える一歩を踏み出せたことに感謝しています。今後も地域活動を続けていきたいです。



細田 雄二さん

とう しずおか

東レアローズ静岡

静岡県三島市、沼津市、静岡市



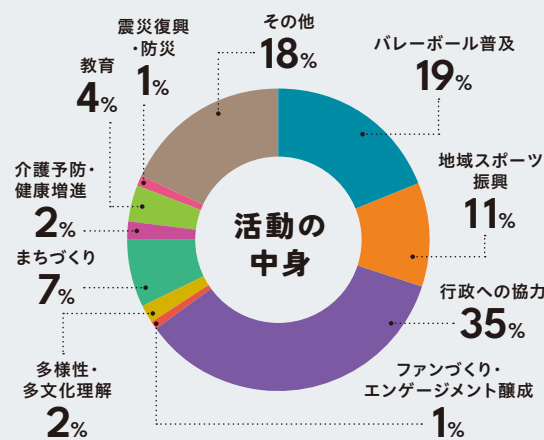
静岡県内のスポーツ振興と次世代育成を掲げる「第17回 大同生命presents アローズカップ」。これまで三島市・長泉町の小学生男子チームを対象としてきましたが、本年度は静岡県全域へ拡大し、県内20チームが参加。地域を越えた交流と競技力向上の機会を創出しました。大会ではトップ選手が臨時コーチを務め、大同生命静岡支社が運営を支援。企業とクラブが一体となって静岡県の未来を築く、持続可能な社会連携モデルとして取り組みました。

ふれあった人数

8,978人

活動回数

89回



憧れの舞台への夢をつなぐMVP特典

最も活躍した選手にはMVP賞を授与し、副賞としてホームゲームの始球式参加権を贈呈しました。地域大会からトップリーグへと夢につながる機会をつくり、子どもたちの挑戦する意欲と目標づくりを後押ししました。



トップ選手が臨時コーチ！ 技術と心を育む指導

大会当日は、トップチームの選手・スタッフが各チームの臨時コーチとしてベンチ入り。憧れの選手から戦術指導や声かけを受け、技術だけでなく、挑戦する姿勢や仲間を思いやる大切さを学ぶ貴重な機会となりました。

企業のボランティアスタッフが 運営で活躍

大同生命保険株式会社静岡支社の皆様がボランティアスタッフとして、得点板操作など大会運営を支えてくださいました。企業とクラブが一体となって子どもたちの成長を支える、地域共創の好事例となりました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

大会を静岡県全域へ拡大したことで募集や運営体制の構築には苦労しましたが、20チームが集う大会へと発展し、うれしく思います。トップ選手が、子どもたちに夢や目標を持つきっかけを届けられたことが大きな成果です。

渡辺 慎太郎さん



ジェイテクトSTINGS愛知

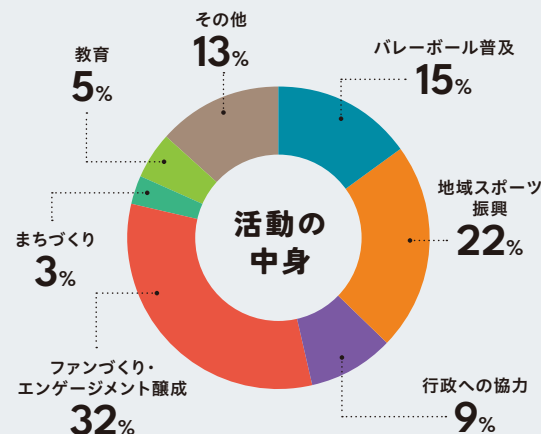
愛知県岡崎市



令和5年に岡崎市とスポーツ振興協定を締結し、ホームタウンを岡崎市へ移転。「市民の愛着や誇りがあふれる岡崎市の実現」をテーマに、観光振興、地域・経済活性化、スポーツ普及の3分野で地域共創を推進しています。行政や企業、学校、市民との対話を重ねて信頼関係を築き、継続的な協働体制を構築。地域企業からは「一緒に地域をつくる主体になれた」などの声が寄せられ、持続可能なホームタウン活動の基盤づくりにつながっています。

ふれあった人数
11,660人

活動回数
37回



2025-26主な活動

ホームゲームに市外来場者を誘致

ホームゲームへの市内飲食事業者の参画を促進し、アリーナグルメの充実と地域経済の活性化に取り組みました。さらに、ホームゲーム観戦チケット付き宿泊プランを企画。岡崎の街の魅力も楽しんでいただけるよう取り組みました。ふるさと納税を活用した宿泊プランなど、今後も岡崎市と連携して観光・経済活性化を推進します。



クラブ・市民・企業が一丸となり岡崎を盛り上げる

選手による市内案内動画を制作・発信し、岡崎の魅力を発信。また、「市民の愛着や誇りがあふれる岡崎市」の実現をめざす「おかざき BEE ONE コミュニティ」を設立し、地域・経済活性化に取り組んでいます。



多くの人にスポーツの魅力を届け、笑顔あふれる街に

岡崎市と連携し、パレーボール教室やママさんパレーボール大会、ホームゲーム招待などを通じて、スポーツに親しむ機会を創出しました。今後は小さな子ども向けの活動を強化。体を動かす楽しさを伝えていきます。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

岡崎市とともに取り組んできた活動は、大きなやりがいと達成感につながりました。街が少しずつ元気になっていくことを実感でき、メンバー全員が前向きに、楽しみながら活動できていることを誇りに感じています。

寺嶋 大樹さん(中央)



ウルフドッグス名古屋

愛知県稲沢市、一宮市、清須市、小牧市、名古屋市



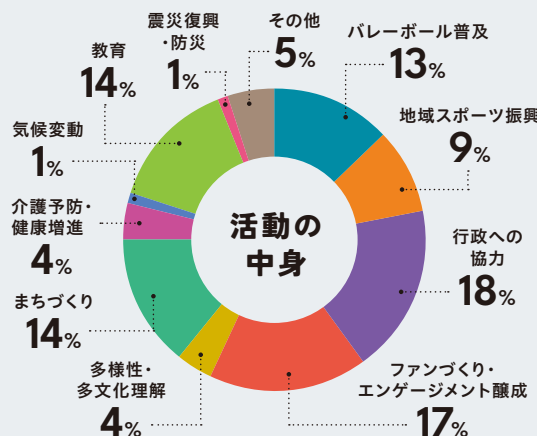
稲沢市・清須市・一宮市と連携し、防災・福祉・子育て支援・環境保全・産業振興など幅広い行政分野で、選手が市職員の一員となって2か月間の実習を実施。実習を通じて地域課題や市民のニーズを現場で学び、健康増進イベントや地域行事にも参画しました。4年目を迎えた本活動は、当初のクラブPRという目的から地域課題の解決をともにめざす取り組みへと発展。各市から計画事業への参画やイベント出演を求められるなど、信頼関係を築いています。

ふれあった人数

71,975人

活動回数

246回



2025-26主な活動

行政現場で地域のリアルを知る

稲沢市スポーツ課・シティープロモーション課では山田脩造選手が活動。保育園・小中学校でのバレーボール教室、市公式YouTubeやラジオ出演、図書館業務、ごみ分別業務など多数の行政実務を経験しました。



情報発信と健康づくりでまちを元気に

清須市人事秘書課では傳田亮太選手が活動。市制20周年PRとして広報誌や公式SNSなど情報発信を担当したほか、高齢者向けの体操や健康講話、バレーボール教室を開催し、健康増進と世代を超えた地域交流を推進しました。



夢と安心を育むまちづくりに貢献

一宮市スポーツ課では市川健太選手が活動。小中学校11校でキャリア教育「夢授業」に参画したほか、保育園22園でバレーボール教室を開催。防犯啓発活動など、スポーツの枠を超えた地域課題解決にも取り組みました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

選手が2か月間、市役所の実習生に。さまざまな課と連携し、地域の皆さんと交流を深めています。市役所との調整は大変ですが、競技の枠を超えて地域に寄り添い行動する姿が、このチームならではの魅力です！



風間 圭祐さん

おおさか

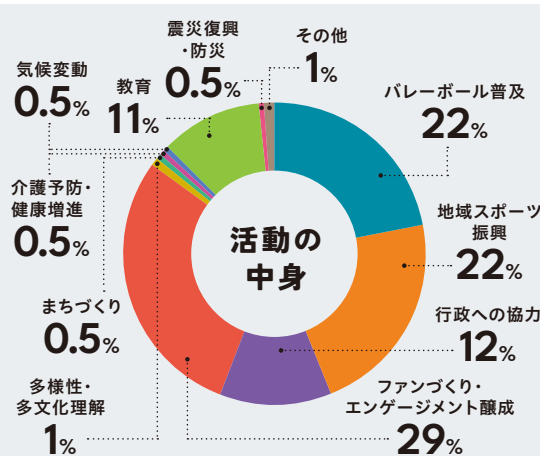
大阪ブルテオン

大阪府枚方市、寝屋川市、門真市、守口市、交野市



ふれあった人数
79,688人

活動回数
146回



手話でつなぐ応援の輪

試合の事前告知では、選手出演の手話動画をSNSで発信。さらにパートナー企業と手話Tシャツを制作し、当日はチーム関係者も着用。販売収益の一部でスポーツ用品を大阪府内の聴覚支援学校へ寄贈しました。



全員参加の手話応援で心を一つに



デフバレーボール女子日本代表選手によるサーブセレモニーを実施。さらに手話体験ブースや大型ビジョンで応援フレーズを紹介し、観客参加型の手話応援を行いました。聴覚支援学校の生徒ら約90人も交流を楽しみました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

「支援する・される」ではなく、誰もが同じファンとして試合を楽しめる空間をめざしました。クラブ一丸で取り組んだ結果、会場には自然と手話があふれ、めざしてきた景色を少し形にできたと感じています。

岡森 祐太さん



サントリーサンバーズ大阪

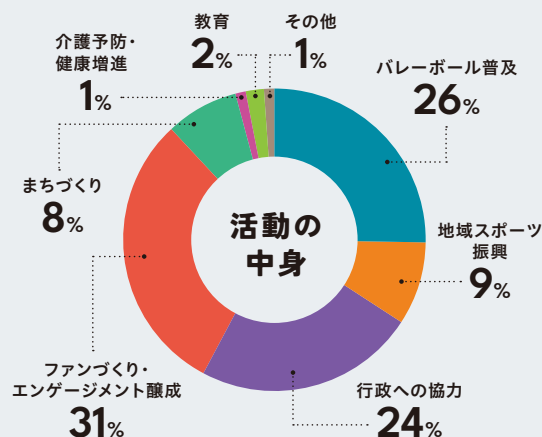
大阪府大阪市、箕面市



「今できる未来へのトスアップ!!」をスローガンに、スポーツSDGsを通じて子どもたちの明日へつながる“やってみなはれ”を応援しています。学校現場ではボールが不足し、傷んだ古いボールを使わざるを得ない現状を受け、自治体やパートナー企業と連携した寄附の仕組みを構築。ボールやビブス、メッシュケースなどを届け、子どもたちが安心してスポーツに取り組める環境づくりを進めています。大阪発の官民連携モデルを全国へ広げていきます。

ふれあった人数
33,894人

活動回数
68回



2025-26主な活動

パートナー企業と手を取り合い、学校に支援

1校あたりの体育教材予算は小学校約10万円、中学校約25万円と限られています。パートナー企業の理解を得て行政との橋渡しを行い、スポーツ用品の寄附を実現できました。学校からは「新しいボールで子どもたちが楽しそうに活動している」と喜びの声が寄せられ、寄附企業からは「母校や地域に恩返しができ、社会貢献を実感できた」とお話をいただきました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

現場のニーズに寄り添う支援を通じて、地域とのつながりを深める大切さを実感しました。今後も大同生命SVリーグの社会的価値を発信し、パートナー企業の皆様と共に地域課題解決に取り組んでいきます。

山本 和史さん



にっぽんせいいてつきかい

日本製鉄堺ブレイザーズ

大阪府堺市



ホームアリーナ「大浜だいしんアリーナ」を核に、堺市・南海電気鉄道・堺駅前商店会と連携し、沿線エリアの賑わい創出とクラブ認知度向上に取り組みました。南海電気鉄道とパートナーシップを組み、ラッピング電車「ブレイザーズトレイン」の運行や駅ポスター、なんば駅の大型ビジョンなどで広報活動を強化。ホームゲームを軸に地域への愛着を育み、「なんばで買い物・堺で観戦・沿線で暮らす」等、地域内循環と地域魅力創出の実現をめざします。

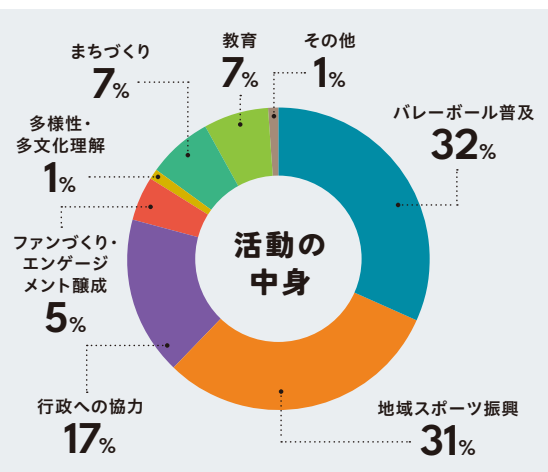
※南海電気鉄道(株)は2026年4月1日より商号を(株)NANKAIへ変更しております。

ふれあった人数

17,371人

活動回数

64回



2025-26主な活動

鉄道連携で街とホームゲームに活気を

南海電気鉄道での「ブレイザーズトレイン」運行や駅構内での広報活動により、クラブの認知度向上とホームゲームへの来場促進を実現。沿線住民や行政関係者からも多くの反響が寄せられました。さらに今シーズンは平日ナイトゲームを初開催し、駅周辺商店堺旧港エリアにおける平日の賑わい創出に貢献しました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

1969年から堺市をホームタウンとするクラブとして、地域の皆様に改めてチームを知っていただくことに力を注ぎました。南海電気鉄道様とともに、沿線の賑わいを創出し、堺市の魅力向上をめざして取り組んでいきます。



藤野 翔太さん

ひろしま

広島サンダーズ

広島県広島市



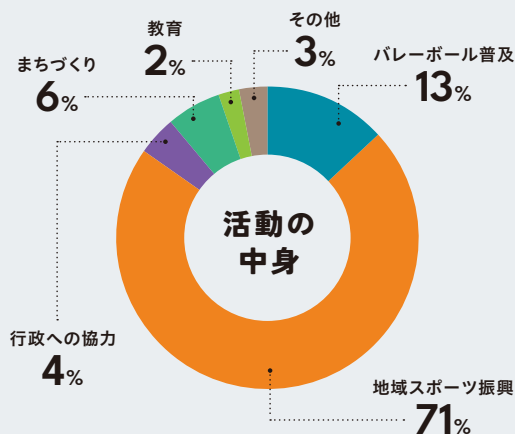
広島大学病院と医療支援協定を締結し、選手・スタッフへのメディカルチェックや栄養サポート、スポーツ科学に基づく分析など、多面的な支援体制を構築しています。大学病院の専門的なバックアップは、選手の安心感や競技力向上、選手獲得時の強みにもつながっています。一方で、病院にとってもスポーツ医療の認知向上という効果を創出。今後は健康診断の受診啓発や高齢者向け運動教室などを共同開催し、地域の医療費削減にも貢献していきます。

ふれあった人数

7,645人

活動回数

90回



2025-26主な活動

救命アンバサダー始動

スポーツ現場で起こり得る突発的な心停止への対応力向上を目的に、広島大学病院によるBLS(一次救命処置)講習を受講。選手・スタッフが救命スキルを学ぶとともに、「救命アンバサダー」としてスポーツ現場や地域へ救命の大切さを発信しました。救命の輪を広げます。



バレーボールで広がる園児の笑顔

広島大学病院たんぽぽ保育園を選手が訪問。バレーボール体験を通して園児たちと笑顔あふれる交流を実施しました。スポーツに親しみきっかけづくりと、地域との温かなつながりを育む機会となりました。

子どもたちへ元気を届ける

病気と闘う子どもたちとその家族を励ますため、広島大学の小児病棟を選手が訪問。パス交換や各病室での交流、サイン入りうちわのプレゼント、記念撮影などを行い、笑顔あふれるひとときに。前向きな子どもたちの姿から、選手も元気をもらいました。



MESSAGE ホームタウン担当から一言

選手の小児科訪問は、子どもたちへ勇気や希望を届ける大変意義深い取り組みです。医療機関との連携は単なる協定にとどまらず、選手の健康管理や競技力向上につながるとともに、地域に新たな価値を生み出しています。



原田 稔一さん

2026-27 次のシーズンに向けた挑戦

2025-26シーズン、SVリーグは「SmileRally」の旗印のもと、全国のクラブとともに地域に根差したさまざまな社会連携活動に取り組んできました。その結果、1年間で合計1,612回の活動を実施し、日本全国で53万9,241人もの皆さまと笑顔を交わすことができました。競技の枠を超え、人と人、地域とクラブをつなぐ新たな価値が少しずつ広がっています。3年目を迎える2026-27シーズンは、各クラブがバレーボールを主たる事業とする運営法人を独立させる「プロ化元年」と位置付けられています。満員のアリーナを実現し、地域の皆さまにより愛されるクラブとなるためには、これまで以上に地域に根ざした活動を展開していくことが重要です。リーグとしても、新設される「SV.LEAGUE GROWTH」を含む全40クラブの社会連携活動を支援するとともに、リーグ全体で取り組む社会連携活動の設計や、アジアを中心とした海外での取り組みにも挑戦していきます。「強く、広く、社会とつなぐ。」というMISSIONのもと、諸団体との共創の対話を重ね、年齢・性別・カテゴリを問わない「バレーボールファミリー」で連携し、誰もが共に笑顔で生きられる共生社会の実現をめざします。この想いにご賛同くださる方は、ぜひ共に「SmileRally」でつながりましょう。

つなぐ力で、みんなを笑顔に。



SV.LEAGUE SmileRally REPORT 2025-26